



# 校長通信

令和3年度19号

令和3年12月16日

和歌山市立河北中学校 校長 戸川定昭

## 《全国学力・学習状況調査について》

5月27日（木）全国の中学3年生を対象に実施された学力・学習状況調査について、先月、本校の状況を公開してもよいと、和歌山市教育委員会の許可が出たので、結果の現状と課題についての文書を、3年生保護者に配布しました。

校長通信でも、その内容の一部を取り上げます。全保護者の方に本校の状況を把握していただき、子供たちの更なる学力向上に向けて、御協力いただけたら幸いです。

学力調査は、国語科と数学科において実施されました。本校生徒の正答率は、国語で和歌山市の平均並み、数学は2ポイント高い結果となりました。河北中学校の特色として、国語、数学とも、すべての記述問題（文章を書いて答える問題）において、無答率（答えを全く書いていない率）が全国、県、市と比較して、低いことが挙げられます。このことから、本校の生徒は、たとえ、問題がわからなかったとしても、あきらめずに文章を書いて答えようとしていた事が伺えます。日頃から、文章を書いたりする活動を取り入れていることと、学校教育目標にある「ねばり強く実践する」ことを目指して学習している成果が出てきていると考えています。

課題としては、国語においては、語彙力が弱いところと、文章を読んで理解し、それに関して、自分の考えを記述する力が弱いところが挙げられます。数学においては、グラフの特徴を読み取り、記述する力に課題があることがわかりました。国語、数学の共通の課題として、文章や図表から、その特性を読み取る力が不足しているということです。

この課題を克服するのに、家庭でもできることは、読書の機会を増やすことです。文章を読む機会を増やすことにより、語彙力や読解力が身につきます。ぜひ、ご家族みなさんで、読書する機会を増やしていただけたらと思います。また、家庭学習においては、宿題や課題がなくても、その日、授業で学習したことを、短時間でもいいので、家庭でもう一度復習する習慣を身につけてほしいと思います。保護者の方は、子供に無理に勉強することを強いるのではなく、その日、学校で何の教科を学習したのか、また内容はどんなことを学んだのか等、尋ねたりしながら、自然と学習を促すことができれば最高です。

学校においては、授業で、生徒が考えて、考えをまとめたり、意見を交換し合ったりする活動を充実させ、家庭では、読書、日々の復習を実践し、学校と家庭の取組の相乗効果で、子供たちの学力アップにつなげて行きたいと思います。よろしくお願いします。

## 《2021 最後の天体ショー》

12月13日の夜から14日明け方にかけてふたご座流星群がピークを迎え、全国各地で多くの流れ星が見えたようです。

私も、14日、いつものように、朝5:30頃からランニングをしていたのですが、その時、流れ星を2つ見る事ができました。一瞬でしたが、とてもきれいで、朝からとても得した気分になりました。まさしく「早起きは三文の徳」を実感しました。



冬の空は、空気が澄んで、星がきれいに見えます。寒いので、風邪をひかないよう気をつけなければいけませんが、時にはきれいな星空を眺めてみては如何でしょうか。きれいな夜空を見上げると、身も心も上向きになって、少し幸せな気分になれると思います。